

第88回総合科学技術会議議事録（案）

1. 日時 平成22年2月3日（水）17：37～18：15

2. 場所 総理官邸4階大会議室

3. 出席者

議長	鳩山由紀夫	内閣総理大臣
議員	平野 博文	内閣官房長官
同	川端 達夫	科学技術政策担当大臣・文部科学大臣
同	原口 一博	総務大臣
同	菅 直人	財務大臣
同	直嶋 正行	経済産業大臣
同	相澤 益男	元東京工業大学学長
同	本庶 佑	京都大学客員教授
同	奥村 直樹	元新日本製鐵（株）代表取締役副社長、技術開発本部長
同	白石 隆	元政策研究大学院大学教授・副学長
同	今榮東洋子	名古屋大学名誉教授
同	青木 玲子	一橋大学経済研究所教授
同	中鉢 良治	ソニー株式会社取締役代表執行役副会長
同	金澤 一郎	日本学術会議会長
臨時議員	仙谷 由人	国家戦略担当大臣
同	小沢 鋭仁	環境大臣
同	赤松 広隆	農林水産大臣（代理 郡司 彰 副大臣）

4. 議題

- （1）最先端・次世代研究開発支援プログラム運用基本方針（決定）
- （2）科学・技術関係予算の重点化・効率化に向けた取組について（報告、了承）
- （3）その他

5. 配布資料

- 資料1 - 1 最先端・次世代研究開発支援プログラム運用基本方針（案）（概要）
- 資料1 - 2 最先端・次世代研究開発支援プログラム運用基本方針（案）
- 資料1 - 3 参考 最先端・次世代研究開発支援プログラム
- 資料2 - 1 科学・技術関係予算の重点化・効率化に向けた取組について（概要）
- 資料2 - 2 科学・技術関係予算の重点化・効率化に向けた取組について
- 資料3 平成22年度科学・技術関係予算案の概要について
- 資料4 平成22年度の科学技術振興調整費の配分の基本的考え方
- 資料5 第87回総合科学技術会議議事録（案）

6. 議事

【川端議員】

お忙しい時間ところお集まりいただきましてありがとうございます。

定刻若干おくれましたけれども、ただいまから第88回総合科学技術会議を始めたいと思います。

議事進行を務めさせていただく科学技術政策担当大臣の川端達夫でございます。よろしくお願いいたします。

総合科学技術会議には、これまで文部科学大臣ということで出席しておりましたが、1月7日に科学技術政策担当大臣を兼ねて拝命をいたしました。

兼務ということになりますけれども、それぞれの立場をわきまえて進行をさせていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げたいと思います。

本日の総合科学技術会議では、「最先端・次世代研究開発支援プログラム」の運用に係る基本的な方針及び鳩山政権における総合科学技術会議の新たな取組である「科学・技術重要施策アクション・プラン」についての議論を予定しております。

なお、本日は、環境大臣、国家戦略担当大臣、農林水産副大臣にもご出席をいただいております。

それでは、まず議長である鳩山総理からごあいさついただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

【鳩山議長（内閣総理大臣）】

お集まりをいただきましてありがとうございます。

議長として一言ごあいさつを申し上げたいと存じます。

夕刻になりましたけれども、皆様方にご多忙の中お集まりをいただいて、総合科学技術会議を開きたいと思っております。

きょうのテーマは大きく2つありまして、若手研究者、あるいは女性研究者に対する支援の新たなプログラムが一つでございます。

もう一つは、総合科学技術会議、これから今まで以上に大きな役割をぜひ演じていただきたいと考えているわけではありますが、科学・技術予算にかかります新たな取組について議論をいただきたいと、そのように思っております。

昨年末に私ども新たな成長戦略の基本方針というものを打ち出させていただいて、そこにむしろピンチをチャンスに変えるんだと、そこに成長があるんだということでございまして、何がピンチかと言えば、いわゆる高齢化というもの、これはむしろ健康長寿だというふうにとらえるということで、いわゆるライフ・イノベーションというものを作り出していくことによって、それをまさに科学・技術力で日本を成長産業、成長に導いていくというシナリオをつくりたいと、それが一つでございます。もう一つは環境問題、これもネガティブに考えるのではなくて、ポジティブに考えようじゃないかと、グリーン・イノベーションだという発想でございまして、環境によって新たな成長というものを世界の中で牽引していくということを考えていきたいと思っております、こういう一つの方向性を打ち出したところでございまして、それに基づきまして、先生方、議員の皆さん方に有意義な議論をしていただきたいと、いかにしてこういった目玉というものをつくらせていただく中で、科学・技術というものをさらに発展させていくかということで、ぜひとも知恵を絞っていただきたいなと、そう思いましてお集まりをいただいた次第でございます。

どうぞよろしく願いいたします。

【川端議員】

ありがとうございます。

それでは、このたび新たに議員に就任をしていただきました中鉢良治議員から一言ごあいさつをいただきたいと思えます。座ったままでどうぞ。

【中鉢議員】

中鉢でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

【川端議員】

ありがとうございました。

それでは、議題に入ります。

最先端・次世代研究開発支援プログラム運用基本方針（決定）

【川端議員】

議題 1、最先端研究開発支援プログラムについては、補正予算見直し後、若手・女性・地方の研究者を対象とした研究開発支援に500億円を充当することとし、関係府省、研究者からも広く意見を聞きながら、有識者議員を中心にその内容を検討いただきました。

本プログラムの運用の基本方針を相澤議員より説明していただきます。

なお、この議案については、意見交換の後、決定していただきたいと思います。

よろしくお願いいたします。

【相澤議員】

それでは、資料の 1 - 2 がございますが、これが本日決定していただきたい本文でございます。

説明は資料 1 - 1 のパワーポイントのハンドアウトしたものを使って行わせていただきます。

ただいまご紹介のございました500億円を若手研究者等のための新たな支援に充てるとの方針は、昨年12月3日に開催されました本会議において決定していただいているところでございます。

この目的は、将来、世界の科学・技術をリードすることが期待される若手・女性・地域の研究者への研究支援、また新成長戦略の基本方針に掲げられましたグリーン・イノベーション及びライフ・イノベーションの推進でございます。

プログラムの内容でございますが、ページをめくっていただきまして下にページが書いてございます。3ページをごらんいただきたいと思います。このページは研究内容でございます
……。

失礼しました。資料 1 - 3 の 1 ページでございます。

最先端・次世代研究開発支援プログラムというタイトルが今スクリーンにございます内容で

す。

このプログラムでは、分野を指定して研究課題を設定するというこれまでの方式から、社会的あるいは政策的に重要な課題の解決に貢献する挑戦的なアプローチを採択するという方針転換が行われています。新たな科学的・技術的知見の発掘、多様な分野の科学的・技術的知見の統合によるブレークスルーの技術の創出、革新的技術の戦略的な推進、研究開発の実利用・普及のための社会システムの転換、こういったチャレンジを奨励するものでございます。

新成長戦略にありますグリーン・イノベーションの推進には、左側でございますように、地球温暖化を克服し、持続的発展が可能な社会の実現を目指した幅広い多様な科学・技術革新及び社会革新が含まれます。つまり一つの分野をひたすら推進するというよりは、いろいろな分野の知恵を集結して課題解決に向かうということでございます。

どんな課題があるかということは例示として挙げてありますが、ここに掲げたものだけでなく、もっともっといういろいろな課題が提案されてしかるべきだという考え方でございます。同じようなことがライフ・イノベーションにも適用されまして、健康社会の実現ということを目的といたしまして、先端的な研究開発を幅広く推進するというところでございます。ですから、医療とか介護という、こういう分野に特定するというのではなく、いろいろな分野の知恵を集結させてこの課題解決に取り組むことでございます。課題の例示としてはそこに掲げてございますが、これにこだわることなくということでございます。

初めの資料1 - 1の2ページ目をごらんいただきたいと思います。

このようなプログラムを、総合科学技術会議、それから政務三役及び有識者議員から構成される次世代プログラム運営会議、それから日本学術振興会、この3つの組織がそれぞれの役割分担をして、プログラム全体を進めていくということでございます。

以上の内容が、先ほどの資料1 - 2、最先端・次世代研究開発支援プログラム運用基本方針に盛り込まれております。

本日はこの基本方針をご議論いただいて、ご決定いただければというふうに思います。

以上でございます。

科学・技術関係予算の重点化・効率化に向けた取組について（報告、了承）

【川端議員】

それでは、議題を初めにまとめてご提起をいただくという意味で、続きまして議題2の総合科学技術会議の新しい取組である「科学・技術関係予算の重点化・効率化に向けた取組」につ

いて相澤議員より報告いただきます。

お願いします。

【相澤議員】

それでは、資料2 - 1をごらんいただきたいと思います。

資料2 - 1に、新たな取組の狙いがどこにあるかをまとめております。

これまで概算要求前に、総合科学技術会議が資源配分方針を6月ごろに提示し、この資源配分方針に基づきまして、具体的な施策が各府省から出されております。しかしながら、この方式ですと資源配分方針が出るだけで、その後、8月における概算要求は各府省それぞれの判断で行われ、総合科学技術会議による優先度判定が行われております。この取組を新たな方式に変換するというのが本日のご提案でございます。

新成長戦略の基本方針を踏まえた上で、総合科学技術会議が具体的な個別施策群のポートフォリオを策定し、各府省に対し、概算要求前に総合調整を行うことにより、科学・技術関係予算の重点化・効率化を実現することが狙いであります。このことによりまして、科学・技術関係予算全体についての透明性というものがさらに向上するというふうに考えております。

それでは、具体的な取組はどうかということではありますが、その下にあります図をごらんいただきたいと思います。

プロセスとして、2月の末に、有識者議員が策定いたします科学・技術政策の当面の重要課題が提示されます。この重要課題がその後の資源配分方針の骨格をなすものということになります。ただ、資源配分方針の決定に至るまでにアクション・プランという形で、この中に重要な施策についてのポートフォリオを形成し、これを4月上旬に策定いたします資源配分方針の基本指針に反映させる、こういう内容でございます。

科学・技術の重要施策に関するアクション・プランの策定では、新成長戦略の中に組み込まれておりますグリーン・イノベーション、ライフ・イノベーションという2つの重要施策を本年につきましては先行的な例として取り上げ、それぞれについてのポートフォリオを形成することでスタートさせたいと考えております。

あと制度改革に係ることでもう一つ立てるということが、当面想定されております。

各府省と連携、あるいは調整を経つつ、また適切な段階で公的な意見聴取も行いまして、アクション・プランをまとめていきたいと思っております。

以上のとおり、4月上旬に本会議で基本指針を決定いただき、6月ごろには資源配分方針

を決定いただくと、こういうプロセスでございます。

こういうような新しい取組が今回の提案でございます。

この取組の実効性が確保されるためには、ただいまの方式によるアクション・プランに基づいた資源配分方針、優先度判定を反映した具体的な予算措置が不可欠でございます。これが実行されることによって科学・技術関係予算の質の向上、重点化・効率化が達成されると考える次第でございます。

どうぞよろしくご審議いただきたいと思います。

【川端議員】

ありがとうございました。

それでは、この後議題1と議題2について意見交換をさせていただきたいと思います。

ご意見のある方、どうぞ。

官房長官。

【平野議員】

一番の前提のところですが、今先生のほうからご説明をいただきました支援プログラムの運用基本方針ということをご説明をちょうだいしました。この中で、これはこういうスキームでやられるということですが、これは懸念ですが、例えば日本学術振興会というところが一つの部分を、公募であるとか審査でありますとか、そういう部分を担う仕組みになっていますよね、一つのプログラムとしては。これは政府のほうでいきますと、一つは行政刷新の対象組織に一応しているものですから、考え方のスキームとしてはいいんですが、この組織は本当に要るのか、要らないのかという、対象組織にしてあるものですから、余りここが固定化されての理屈でいきますと、非常に難しいかなということなんで、担当の仙谷大臣、どうお考えかわかりませんが、私はそういうイメージを持っておるものですから。

【川端議員】

仙谷大臣。

【仙谷議員】

私もこの運用基本方針の、2ページの3の(1)の の表現を拝見すると、公募及び審査並

びに運営会議における検討を経て、総合科学技術会議が決定するという事になっておるわけですが、ここは一手販売というか、日本学術振興会が完全に公募と審査を握ってしまうという話になっているわけですね。実は昨年の補正予算の巨額な科学研究費の使い方というか、配分の仕方についてもこれは私は素人ですから、ほとんどどなたが言っていることが正しいのか知らぬけれども、随分あの後異論が出てきまして、こんなものやったって箱物にしか使わないぞとか、そういう一体全体どういう審査がどのような形でやられているのか、特に独法ということになりますと、私ども行政刷新の立場からは、これは一遍、それこそ仕分け手法で世の中への透明度を高くしないと、どうにもこうにも今の若手研究者とかいろいろな研究をされている人にとって不満が残るといふか何か、何であれが選ばれて、こういう優秀な若い人が選ばれないんだみたいな話というのは、もう相当の間来まして、どこか病んでいる部分があるのかなと、あるいは病んでいるかどうかわからないけれども、再点検しなければいけないところがあるのかなという感じでこの間来ておるわけでありまして。この独法日本学術振興会というところのある種の独占というか、専権的なこういうやり方で果たしていいのかどうなのかということをご検討いただければと思います。

【川端議員】

それについてどうぞ。

本席議員。

【本席議員】

ただいまのご懸念でございますが、実は前の最先端のいわゆる3,000億からスタートしたものの、選考は学術振興会ではございません。選考をやりましたのは、政治的トップダウンで定められた支援会議というところでやりまして、学術振興会は単にお金を配る役だけをしたわけでございます。今回、こういう形で公募、審査をお願いしたほうがいいという考えは、現在、文科省から出ている我が国の一般的な基礎研究のファンドであります科学研究費補助金2,000億円を全国の5万名ぐらいの研究者に毎年配分しているのが学術振興会だからです。その仕組みというのは、我が国が持っている数十ある競争的資金の中で最も公正で透明性が高いと、これは全国の研究者が一致して言っていることでありまして、その仕組みを活用していきたいということでありまして。実際に審査に当たるのは全国の研究者が大学、独法等々の研究者が集まって、非常に大勢の数千名のリストの中から審査員を選びやるということでございますので、

私どもとしては、今日本で考えられる最も透明性の高いやり方であろうと考えております。

【仙谷議員】

これは、従来からそうなんですか。この日本学術振興会を使っているわけ。

【本庶議員】

はい。

【仙谷議員】

今言った、何か研究者を選ぶとおっしゃるんだけど、それはだれが選ぶんですか。

【相澤議員】

私のほうからお答えいたします。

学術振興会に今回委託しようとしておりますのは、今回の公募を行ったときに1,000件とか数多くの応募が想定されますので、そのスクリーニング段階に相当するピアレビューでありまして、これだけを委託いたします。最終的には、そのピアレビューによる結果をもとにして総合科学技術会議の政務三役及び有識者議員の会が選定に当たります。

それからもう一つ、学術振興会は法律に基づきまして、プログラムの財源であります先端研究助成基金を管理しております。その資金を学術振興会が意図どおりに使うということは全くできないわけでありまして、ただ単なる資金の管理でございます。そういうことで、資金の管理はそういう意味で法律に基づいて行われていることと、選考に係りましては、選考の最終結果を出すためのピアレビュー、それを学術振興会で行うというような二段構えでございます。

【川端議員】

原口大臣。

【原口議員】

今に関連してですけれども、私たちはいわゆる独法についてのレビューを今やっています。独法は基本的に原則廃止という形に持っていこうとしている中で、日本学術振興会、これは特別なものだと思いますけれども、そここの論理構成はしっかりしておかないといか

ぬなというのが1点目で、それからもう一つ議事2についても一言総務大臣の立場からお願いをしたいのは、科学・技術関係予算の重点化・効率化に向けた取組についてでございますが、極めてここは大事だと思ひまして、23年度科学・技術関係予算を新たな科学技術基本計画のキックオフである重要な位置づけのものだと思ひますが、アクション・プランでは課題解決型の研究開発のみではなく、それらを支える基盤、基幹技術についてもきちんと位置づけていただきたいというのが、1点目でございます。特に、ICT、情報通信技術の利活用は、これはもう今まではICT技術というので独立していたと思ひますが、今はICTと環境、ICTと医療、ICTと介護、あるいはICT教育、エネルギーという形で、新たなイノベーションを生む基盤であって、アクション・プランの中でもぜひここは重要なポジションを占めるものだと認識しておりますので、この位置づけをお願いをしたいのと、日本を、将来を担うヒューマンバリューへの投資も極めて重要だと思ひておりまして、このICTの利活用、ヒューマンバリューへの投資といった重要課題について、このアクション・プランに明確に位置づけてくださいますようお願いを申し上げます。

私たちの総務省では、もう現に原口ビジョンというのを実現に向けてICT政策のタスクフォースを4つ立ち上げまして、環境・医療問題、地球的課題の解決等に向けた検討を進めておりまして、その検討結果も積極的にインプットさせていただきたいと思ひますので、科学関係予算の編成に貢献してまいりたいと思ひますので、ぜひその位置づけを明確にさせていただきたいと思ひます。

よろしく願ひいたします。

【川端議員】

相澤議員。

【相澤議員】

ただいまのことに関して、先ほどご説明いたしましたように、科学・技術政策の当面の重要課題というものを出示しますが、その中には今ご指摘のような内容がすべて含まれているということがまず前提でございます。それで、アクション・プランについては、実はその重要課題全部についてアクション・プランをつくりたいんでございますけれども、ことしは先ほど申しました2つないし3つぐらいのところを対応するのがいろいろな意味から限度ではなかろうかということで先行的に行う例としてということでございます。ですから、4月上旬に決定いたし

まず資源配分方針の基本指針には今のご指摘のような横断的な基幹技術と、そういうふうなものがすべてその中には盛り込まれてくるということでございます。そういうことでご理解いただければと思います。

【原口議員】

ぜひICT技術の利活用とそれからヒューマンバリューへの投資、これはやはり鳩山内閣の一番大きな柱だと思いますので。

【相澤議員】

そうでございます。先ほどの次世代の研究プログラムについてもごらんいただくとおわかりのように、グリーン・イノベーションの中にも、それからライフ・イノベーションの中にもICTの活用というようなことを盛り込ませていただいております。

【川端議員】

他にございませんか。

奥村先生。

【奥村議員】

アクション・プランについて、技術の流れのほうからこの効果について一言触れさせていただきたいと思うんですけれども、既にご案内のように、日本の中で民生技術もそうですし、いわゆる技術がどんどん高度化していく過程はさまざまな科学知見、技術知見を組み合わせで高度化を達成するという極めて大きな流れがございます。直近で言えば、日本でもようやく医療ロボットが認可されたようでございますけれども、医学とそれからメカトロニクスの融合で初めて形になるということで、これを各府省の、予算要求する原課のほうから見ますと、自分の担当する所掌の事務事業の関係する技術スペクトルは昔に比べて非常に広がっているということだろうというふうに思います。したがって、それぞれ各府省の要素技術、関係する技術をパッケージにすることは最終的に形にするという方向性だろうというふうに思います。既に研究の現場では、いわゆる研究者のネットワークをつくりなさいとか、それから大学間をもう少しお互いに連携してやりなさいと、こういう施策は進めてきていますが、そういったテーマの上流側にある施策、ここをパッケージにすればより強くなると、そういう意味合いもこのアク

ション・プランの中には込めているというふうに私は理解しております。

【川端議員】

ありがとうございます。

時間も経過してまいりました。この特に議題2の科学・技術関係予算の重点化・効率化に向けた取組について、いろいろご意見もいただきましたし、これは今までにない予算編成の過程の取組でありますのですが、総理からちょっとご意見を。

【鳩山議長（内閣総理大臣）】

私は議長として申し上げるべきだと思って申し上げますが、こういった今お話をいただく中で、総合科学技術会議から科学・技術関係予算の重点化・効率化に向けた取組について、今ご案内のような報告があったことは一つは科学・技術の予算の質を高めるということと、もう一つは透明性を高めるという2つの目的があるかと思っております、この2つの目的を果たすために大変大事だと、有効だと思っております、予算編成のあり方を前進させるという意味でも画期的な話ではないかと、そのように評価をいたしたいと思っております。

こういったアクション・プランの新しい取組をこれから国民の皆さんの声も聞きながら進めていくと、それから各府省の協力のもとで実施するということが大変新しい話だと思っております、さっき申し上げたように画期的ではないかと思っております。したがって、この取組を前に進めていくためには、まさに今お話がありましたように財務大臣を初め、各大臣が積極的に取り組んでいただくということが何より求められているものでありますので、各大臣におかれましては、先ほど原口大臣もある意味でライフ・イノベーション、グリーン・イノベーションという縦串に対してICT横串で刺していくというこの重要性のご指摘もあったわけですが、積極的に取り組んでいただきたいと期待をいたすところでございます。

【川端議員】

ありがとうございました。

財務大臣のほうから。

【菅議員】

前任者ということもありますが、今も総理からお話があったので十分だと思いますけれども、

従来はいわゆる概算要求が出た後にいろいろ優先度判定をしていただいて、必ずしもそれがフィードバックする仕組みが十分でなかったように思っていましたので、今回こういう形で総合科学技術会議の考え方がもうちょっと予算編成に要求の段階できちんと反映されるということは良いことではないかなと私も思っております。

【川端議員】

ありがとうございます。

それでは、議題1に戻りまして、議題1も先ほどいろいろな仙谷大臣からご指摘もありましたが、最先端・次世代研究開発支援プログラム運用基本方針の決定を行いたいと思いますが、先ほどのいろいろな意見も踏まえながら、この仕組みでやるということで決定してよろしいでしょうか。

【直嶋議員】

だから、例えば今お話しあったように独法の見直しとか、これから進めていくわけなので、そういう前提で例えば当面ここを活用させていただくとか、少し状況によっては見直し作業との関係で変化もあり得るといふ、そういうところを前提条件として確認しておかないと。

【川端議員】

仙谷大臣。

【仙谷議員】

ここで決定されるとすれば、作業日程としてはどういうふうになるんですか。公募審査、そのピアレビューの関係とか。つまりそのところだけ再検討、あるいは再構築を規制のものを使うかどうかということも含めて、改めて透明度を高くやるために、どういうピアレビューというか、公募審査をやるのかということについて、再構築する時間的余裕があるのであれば、それはこのところだけ留保してお決めいただいたほうがいいのではないかと私は思いますけれども。

【川端議員】

いろいろな意見も出ました。そして、基本的に独法のいろいろな動きがあることも現実であ

りますが、最終決定機関は政務三役を含めた　　ということの仕組みの粗々のスクリーニングをするという機能でもございますが、いろいろな意見を踏まえて取り扱いと修正については議長である総理と私にご一任いただくということでお預けいただくということで関係各省とはまたいろいろ相談をさせていただきますが、そういう形でお決めいただくことでよろしいでしょうか。

ありがとうございました。

それでは決定をさせていただきます。

次に、議題２の「科学・技術関係予算の重点化・効率化に向けた取組」について、先ほどのこれは報告でございますので、本会議として了承することにしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

ありがとうございます。

それでは、本案の内容のとおり進めていきたいというふうに思います。

それでは、ここでプレスに入っていて、総理の最後のご発言をいただきたいと思いません。

(報道関係者入室)

【川端議員】

それでは、最後に鳩山総理からご発言をいただきます。よろしくをお願いします。

【鳩山議長（内閣総理大臣）】

総合科学技術会議にお運びをいただきました議員の皆様方には改めて感謝を申し上げます。

改めて申し上げるまでもないわけではありますが、今、アクション・プランというものをお認めをいただいたと。これは予算編成のあり方を変えるという意味で大変画期的な話だと私は思っております。総合科学技術会議も今まで、ある意味でややもすると受動的な部分があったのかもしれませんが、これからはむしろ能動的に大変大きな役割をさらに担っていただくということになりますので、ぜひ頑張っていていただきたいと思っております。

私どもが昨年末に策定をいたしましたグリーン・イノベーション、あるいはライフ・イノベーションという２つの科学・技術というものを柱にした成長戦略、これに基づいて先ほど原口大臣からICTの活用というものは大変大きいんだという話がありました。こういうものを核

としていながら、特に若手の研究者、あるいは女性の研究者が大いに頑張っていけるような、そんな日本の科学・技術のあり方をぜひ皆様方がリードをしていただきたいと改めて心からそのことを期待をいたしていきたいと思っております。

また、それぞれの担当の大臣の皆様方にはアクションプログラム、あるいはプログラムの策定に当たってぜひ積極的にご努力をいただきたいと思っております。厳しい経済状況であることはご案内のとおりであります。それだけに皆様方に課せられた大きな任務というものもご理解をいただいて、ある意味では新しく開かれた総合科学技術会議だと、質も高め透明性も高めていくと、科学・技術予算全体をそのように仕向けていくために、川端大臣を筆頭に努力をしまっていることをみんなで誓い合ってまいりたいと思っておりますので、今後とものご活躍、心から期待を申し上げたいと思っております。

改めてお運びをくださいましたそれぞれの議員の皆さん方に心から感謝を申し上げます。ありがとうございます。

【川端議員】

ありがとうございました。

(報道関係者退室)

【川端議員】

なお、報告案件として、前の会議の議事録等々、資料を配付しておりますのでご注目ください。

以上で本日の会議を終了いたします。

なお、前回会議の議事録と同様、本日の議事録は公表いたします。ご了解いただきたいと思います。ありがとうございました。